



第 11 回国際試験水槽会議の概要

第 11 回 日本組織委員会幹事
Secretary of the Executive Committee

横 尾 幸 一

造船協会が初めて主催した国際会議である第 11 回国際試験水槽会議も無事全日程を終了したので、とりあえずここにその概要を報告する。

1 会議への参加者

外国よりの参加者は Prof. Fink, Mr. Halliday (オーストラリア), Dr. Kretschmer (オーストリア), Prof. Aertssen (ベルギー), Mr. Leone, Prof. Rosa (ブラジル), Mr. Mathews (カナダ), Prof. Prohaska (デンマーク), Cdr. Bindel, Adm. Brard, Adm. Dieudonné, Mr. Jourdain, Mr. Roy (フランス), Prof. Amtsberg, Prof. Kruppa, Prof. Lerbs, Mr. Rader, Dr. Schmiechen, Prof. Schuster, Dr. Schwanecke, Mr. Thieme, Prof. Weinblum, Prof. Wiegardt (ドイツ), Mr. Munaf, Mr. Said (インドネシア), Gen. Battigelli, Prof. Castagneto, Cdr. Ferrauto, Cdr. Maioli (イタリア), Prof. Cho, Prof. Hwang, Prof. Kim (韓国), Prof. Geriitsma, Ir. Lap, Ir. Meijer, Prof van Lammeren, Prof. van Manen, Dr. Wereldma (オランダ), Prof. Lunde (ノルウェー), Mr. Batoon (フィリピン), Prof. Mazarredo (スペイン), Dr. Edstrand, Mr. C. A. Johnsson, Mr. Lindgren, Mr. Norrbin, Mr. Stephanson (スウェーデン), Prof. Firsoff, Mr. Sadovnikoff, Mr. Shpakoff, Prof. Titoff, Dr. Voznessensky (ソ連), Mr. Burt, Mr. Conolly, Mr. Crago, Mr. Dawson, Mr. Goodrich, Dr. Hurst, Mr. Lackenby, Mr. Siverleaf, Mr. Vosper (イギリス), Prof. Abkow itz, Prof. Breslin, Prof. Couch, Dr. Cummins, Mr. Eisenberg, Capt. Ela, Mr. Mr. Gertler, Mr. Hadler, Dr. Hoyt, Mr. V. E. Johnson, Dr. Kaplan, Prof. Landweber, Prof. Lewis, Dr. Morgan, Capt. Obermeyer, Dr. Ochi, Prof. Silberman, Mr. Suarez, Prof. Wehausen, Prof. Johnson, Cdr. Willkins (米国) の 82 名, 日本からは代表 29 名, オブザーバー 47 名が参加した。

2 会議の概要

10 月 10 日にはこの国際会議を運営主催する Execu-

tive Committee が開催され, 11 日の General Session の議事や会議全体の運営について討議決定された。出席者は Brard 委員を除く委員全員で, 木下委員長, Silverleaf 副委員長, Battigelli, Couch, Lerbs, Prohaska, Voznessensky 各委員と横尾, Goodrich 両幹事であった。

10 月 11 日の午前中には, Resistance, Performance, Propeller, Cavitation, Seakeeping, Manoeuvrability, Presentation, の 7 つの Technical Committee が同時に開催され, 各 Technical Session における報告方針その他について話し合いが持たれた。

会議に対する登録は 13 時 30 分より行なわれ, 14 時 30 分から開会式が始まった。まず, 日本組織委員会委員長の山根博士の開会宣言および挨拶があり, Executive Committee の Chairman である木下博士の挨拶が続き, 出席者を代表しての van Lammeren 教授の答礼の挨拶をもって開会式を終了した。少憩の後 general Session に移り, 木下委員長により Executive Committee の Report が読まれた。16 時 30 分には Technical Session, Group Discussion の Chairmen, Technical Committee の Chairmen, Secretaries と Executive Committee との打合わせ会議が持たれ, 会議の運営に関する意見の統一を図った。

10 月 12 日の午前より 17 日の午前までは, 15 日 (土), 16 日 (日) の両日を除き, 7 つの Technical

	Chairman	Reporter	Secretary
Presentation Session	Prof. G. Weinblum	Mr. H. Lackenby	
Manoeuvrability Session	Gen. I. Battigelli	Adm. J. Dieudonné	Mr. A. J. Vosper
Resistance Session	Prof. C. W. Prohaska	Adm. R. Brard	Prof. L. Landweber
Cavitation Session	Dr. H. Edstrand	Prof. J. D. van Manen	Mr. A. Silverleaf
Performance Session	Dr. W. E. Cummins	Prof. C. W. Prohaska	Mr. M. Jourdain
Seakeeping Session	Prof. H. W. Lerbs	Prof. E. V. Lewis	Mr. C. J. Goodrich
Propeller Session	Dr. K. Taniguchi	Prof. J. P. Breslin	Prof. S. Schluster

Session が半日単位で開催された。まず、Technical Committee の chairman が約1時間で Committee Report の概略説明を行ない、Committee の示した Recommendations に関連した議論がこれに続き、その他の報告、討論があって、Session が終わった。各 Technical Session の Chairman, Secretary は前頁の表のとおりであった。

17日の午後と18日の午前の Group Discussion はそれぞれ2会場に分れて行なわれ、それぞれの項目に対して、Chairman の指名した者が opening statement を読み上げ、以後それに関連しての活発な討論が行なわれた。4つに分れたグループの chairman と題目は

1-A Mr. A. Silverleab 1) 模型試験における自動記録および解析 2) 異常推進法

1-B Prof. R. B. Couch 1) 模型試験および船の設計におよぼすその影響 2) 造波抵抗理論の実用上の重要性

2-A Prof. W. P. A. van Lammeren 1) 新施設での経験 2) 新しい種類の実験技術

2-B V. Adm. R. Brard 1) 耐航性実験の目的 2) 尺度影響問題の実用的重要性

15日には、船舶技術研究所の主要研究施設の見学が行なわれ、18日の午後には、各 Technical Committee の会合が持たれた。

20日の General Session の議題は、Executive Committee Report の討論と、各 Technical Committee の Decision および Recommendations を決定することであり、種々議論の結果決定された主な事項は

(1) Executive Committee の新しい member として次の8人が選ばれた。すなわち、Gen. Battigelli, Dr. Cummins, Adm. Dieudonné, Dr. Kinoshita, Prof. Lerbs, Prof. Prohaska, Mr. Silverleaf, Dr. Voznessensky で、定めにより、Gen. Battigelli が Chairman, Dr. Kinoshita が Vice-Chairman となる。

(2) 7つの Technical Committee が任命され、下記の仕事の範囲で、第12回国際試験水槽会議まで務めることになった。

(i) Resistance Committee 船の抵抗の根本問題、抵抗の各成分とその関係に注意を払って。

(ii) Performance Committee 船と模型の推進性能の相関関係に影響する諸問題。

(iii) Propeller Committee プロペラに関する諸問題、プロペラの非定常力とその影響を含んで。

(iv) Cavitation Committee 模型試験法に影響

するキャビテーション現象。

(v) Seakeeping Committee 船の耐航性に関する諸問題、とくに模型試験法に関連して。

(vi) Manoeuvrability Committee 船の操縦性能に関する諸問題、とくに模型試験法に関連して。

(vii) Presentation Committee 船および模型資料の表現法。

(3) Technical Committee の新しい member が下記のように指名された。(敬称略、アルファベット順)

(i) Resistance Committee : Brard, Inui, Landweber, Lap, Lunde, Shearer, Weinblum, Wiegardt

(ii) Performance Committee : Aertssen, Couch, Dawson, Graff, Jourdain, Lindgren, Shpakoff, Taniguchi

(iii) Propeller Committee : Breslin, Cox, Hadler, Ito, V. E. Johnsson, Schwanecke, Wereldsma

(iv) Cavitation Committee : Bindel, Eisenberg, Gorshkoff, C. A. Jhnsson, Maioli, van Manen, Morgan, Rader

(v) Seakeeping Committee : Abkowitz, Crago, Cummins, Gerritsma, Yamanouchi

(vi) Manoeuvrability Committee : Dieudonné, Gertler, Nomoto, Norrbín, Suarez, Thieme, Vosper

(vii) Presentation Committee : Amtsberg, Castagneto, Lackenby, Lewis, Mazarredo, Nakamura, Silovic, Walderhaug

各 Technical Committee の Decision と Recommendations については、紙数の関係で省略するので、興味をお持ちの方は、いずれ詳細の報告がでると思われるので、それまでお待ち下さい。

20日の General Session 終了後直ちに閉会式に移り、Executive Committee より退いた Adm. Brard および Prof. Couch の挨拶、木下委員長の閉会の辞、Gen. Battigelli の第12回国際試験水槽会議に対するイタリアの歓迎の挨拶などで、第11回国際試験水槽会議は終了した。なお、午後には新しい Technical Committee が集って、それぞれの Committee の Chairman と Secretary を選出した。

また、この会議に提出された論文は、Resistance に 28, Performance に 11, Propeller に 13, Cavitation に 10, Seakeeping に 34, Manoeuvrability に 20 で、合計 116 の多きに達した。

3 Social Activities

会議を成功させるかどうかは、会議そのもののアレンジももちろんであるが、Social Activities の成果も大きく影響するものなので、これに対しても相当大きな努力が払われた。

- 10月10日(月) 18:00~20:00 都知事レセプション
 ○ 11日(火) 15:15~16:30 国立博物館見物
 ○ 12日(水) 9:00~16:00 都内観光
 ○ 13日(木) 10:00~14:00 茶といけ花の会
 19:00~22:00 晩さん会
 ○ 14日(金) 10:00~ 着物ショウと買物
 15日(土) 18:00~20:00 船研主催パーティー
 ○ 17日(月) 9:00~16:00 鎌倉見物
 19日(水) 7:50~20:30 日光見物
 20日(木) 19:00~21:00 さよならパーティー
 ただし、○印は婦人のみに対するプログラムであった。外国婦人の参加は18名で、以上の接待は非常に評判が良かったようである。

4 会議後の旅行

会議後の旅行としては A・B2班が計画され、A班は京都・奈良・鳥羽・伊勢・大阪と廻って、日立造船の堺工場の見学後東京に引返し、B班は堺工事見学後、三菱重工長崎造船所および船型試験場を見学し、雲仙見物後東京に戻った。参加した外人はA班に26名、B班に21名で、日本人からは前者に6名、後者に5名が参加した。

5 Proceedings

今後に残された大きな仕事は、第11回国際試験水槽会議の Proceedings の作成であって、資料の整理、Decisions と Recommendations の主要国語への翻訳などの仕事ですんでから、Proceedings の印刷にかかることになる。これはかなり大変な仕事であって、日本組織委員会の下に作られた印刷部会がこれに従事している。予定通りに仕事が進歩したとしても、発行の運びになるのは来年の6月頃になるものと思われる。

日本工業規格

1. 確認された日本工業規格 (昭和41年11月1日)		
船用機関および付着品供給範囲	JIS F 0402	船用電気式プロペラ軸回転計 JIS F 8521
海水温度標準	JIS F 0502	電気式ラダーアングルインジケータ JIS F 8522
船舶機関部コイルばね	JIS F 0503	船用電気式テレグラフ JIS F 8523
船舶機関部装備品	JIS F 7602	2. 廃止された日本工業規格
船舶機関部要具	JIS F 7701	船用蒸気主機関の蒸気圧力・蒸気温度および復水器真空 JIS F 0501

委員会の活動

造船研究委員会 (第73回)

日時 昭和41年11月29日
 場所 造船協会会議室
 出席者 矢杉委員長ほか13名
 議題および決議

1. 主軸 RPM の径年低下 (タービン船およびディーゼル船)
2. 1缶半方式の主および補助ボイラの蒸気条件と容量
3. 外部緩熱器の使用実績と問題点並びに使用機器
4. その他

機装研究委員会 (第50回)

日時 昭和41年8月19, 20日
 場所 石川島播磨重工業株式会社 豊州総合事務所ホール
 出席者 原田委員長ほか60名
 議題および決議
 日本海事協会 鋼船規則に対する質疑応答
 自由討議題目
 ビールスティックエンジンについて

石川島播磨重工業株式会社相生工場 藤田 寛

機装研究委員会 (第51回)

日時 昭和41年10月26, 27日
 場所 日本鋼管株式会社 清水造船所
 出席者 原田委員長ほか50名 (20造船所)
 議題および決議

1. 主機および軸系関係
 - (1) 主機船内塔載後運転始めまでの防錆処置
 - (2) 大型船のスタンチューブブリグナムパイターの異状摩耗について
 - (3) プロペラ設計について
 - (4) スロープボーリングについて
 - (5) 船尾軸のテーパ部の FRETTING CORROSION について
2. 補機関係
 - (1) 機器類メーカー保証の範囲について
3. 運転検査関係
 - (1) タンカの特有機器 (カーゴオイルポンプ, バッタウォ